

憧れのKG

私は高校でアメリカンフットボールに出会い、それに没頭した3年間を過ごしました。これほど夢中になれるものに出会ったのは、もちろん人生で初めてでした。そして、まさか自分の人生を左右するような、これほど大きな存在になるとは思ってもいませんでした。

その後、運よく関西学院大学に入学することができ、憧れであったファイターズへの入部が決まりました。早く活躍したい、それだけを考えていたように思います。その後待ちうける試練のことなど知らず、練習に明け暮れていました。

ファイターズでの4年間

1年生の夏合宿でした。右膝半月板損



YOHEI IKETANI
池谷陽平

「4年生の“本気”に期待」

池谷陽平(いけたに・ようへい)／大阪府立箕面高校2000年3月卒(高校3年時西宮ボウル大阪選抜、パシフィック・リムボウル関西選抜)、関西学院大学2004年3月卒(現役時LB、4年時副キャプテン、日墨国際親善試合関西学生選抜)、2006年2月から1年間、オーストラリアでアシスタントティーチャーとして日本語を指導。関西学院大学大学院2008年3月修了。2010年4月から大阪府高校教員として箕面高校に赴任。2008～2010年はアサヒ飲料クラブチャレンジーズでプレー(2009年副キャプテン)。

ファイターズの4年生

傷。人生で初めて経験した手術。1年を棒に振った、そのように考えていました。1年後、復帰初日の練習で悲劇が起きました。右膝半月板損傷。全く同じ怪我を繰り返してしまったのです。それでも、活躍できる日を夢見てリハビリ、トレーニングに励んでいました。なんとか身体が思うように動き始めたと思ったときにはすでに3年生になっていました。そこに廻って来たチャンス。春の京大戦に出場することができたのです。このチャンスは逃すわけにはいきませんでした。しかし、その想いは空回り。左膝前十字靭帯断裂。3回目の手術です。その時に抱いた感情は今でも思い出せません。

しかしながら、この3度目の手術が私の人生を変えました。4年生で副キャプテンを務めさせていただいたのも、怪我があったからだと思っています。

怪我はチームにとってマイナスでしかない。そう思ったのが、チームということについて深く考えるようになったきっかけでした。今まで、いかに自分のことしか考えてこなかったかを反省しました。それからは、自分は今この時点ではマイナスではない、チームにとってプラスになることを探してやろうと決めました。そのときには、チームの為に自分の為でした。憧れて入ったファイターズがやっぱり好きであるということを確認できた瞬間でもありました。チームが勝つためにできること、それは本気で考えたことのある人にしかわからない、本気で考えたことのある人だけが行動に移せる。それがファイターズの4年生である。そういうことを学びました。もちろん1人で考えてそう思えたわけではありません。監督、コーチ、

今

勝つという目標は達成できませんでした。大切なことを学び、成長させていただき、ファイターズでの経験から、人のために働きたい、自分が本気になれる仕事したいと思いました。その答えは、教育でした。大学卒業後、大学院に進学し、免許を取り、採用試験にやっとの思いで合格しました。みんなより遅れはとりましたが、自分で選んだ道に後悔はなく、誇りを持っています。何よりも大切な仕事であると思っています。毎日本気で仕事ができているということに幸せを感じています。

本気の人間が言うことにみんな惹かれます。ファイターズはそういう人間を育てる場であり、今年も4年生の本気に期待しています。

